

市民が主役の時代

福津らしい地域自治を求めて

「あつて当たり前」がなくなっていく時代の中で

福津市で、人口が減るといふ現象が見えたのは、平成17年の国勢調査でした。

福岡都市圏の他の自治体と比較しても、20歳～40歳代の子育て世代が少なく、

団塊の世代を含む60歳以上の世代が多いという特徴があり、人口減少傾向を強めています。

人口減少は、バス運行やスーパーマーケットなど「あつて当たり前」だった日常生活の便利さが

突然姿を消すことにつながる問題です。

また、人口減少と高齢化は税収の減少に直接影響を及ぼしており、この財源不足を

国や県に頼ることもできなくなっています。

こんな厳しい時代だからこそ、市は、原点に立ち返り、本来あるべきまちの姿、市民の姿、

行政の姿を考え「地域自治」という方向を目指すことにしました。

市は、行財政改革を押し進め、本来やるべきことをやる。

地域で暮らす人たちは、地域で連携して、できることを知恵と力を合わせてやっていく。

今年4月、市は、一番身近な自治会（区）活動が一層活発になることを願い、

「役所が決めた補助金」から「自分たちで使い方を決める交付金」に制度を変更しました。

各区で行政の仕事を「行政区長」の委嘱を止めたのも「地域自治」の体制づくりのためです。

「自治会（区）と郷づくりとの関係は？」「そもそも郷づくりって何？」「どんな活動が行われているの？」

私たちの暮らしとつながる「郷づくり」から地域自治を探ります。

■郷づくりとは…

平成19年度から始まった概ね小学校区単位（以下、校区）の、市民が主体となった地域づくり活動です。地域自治の実現に向け、自治会（区）をはじめ、各種団体やボランティアが連携することで、地域の魅力を高める事業を実施したり、地域課題の解決のための活動に取り組んだりしています。

さまざまな課題にスピーディーに取り組むことができる、地域住民のニーズに柔軟に対応できるといった特長があります。

地域(校区)の個性を伸ばすのが「郷づくり」

市内には農村から、できたばかりの住宅団地まで多様な彩なまちが混在しています。それを一律均等の施策で進めてきたのが、これまでの行政でした。しかし、市は地域の個性を伸ばすことが、持続可能な市の経営につながるという考えから「郷づくり」という概念を掲げました。

情報を共有して、共感する人たちが集まって、より良いまちにしていこうという「共働」を市の総合計画とまちづくり基本条例の中心軸に置いて、地域自治のまちづくりを進めています。

自治会(区)はもちろんだけど、「校区の仲間もいいよね」と言える関係づくり

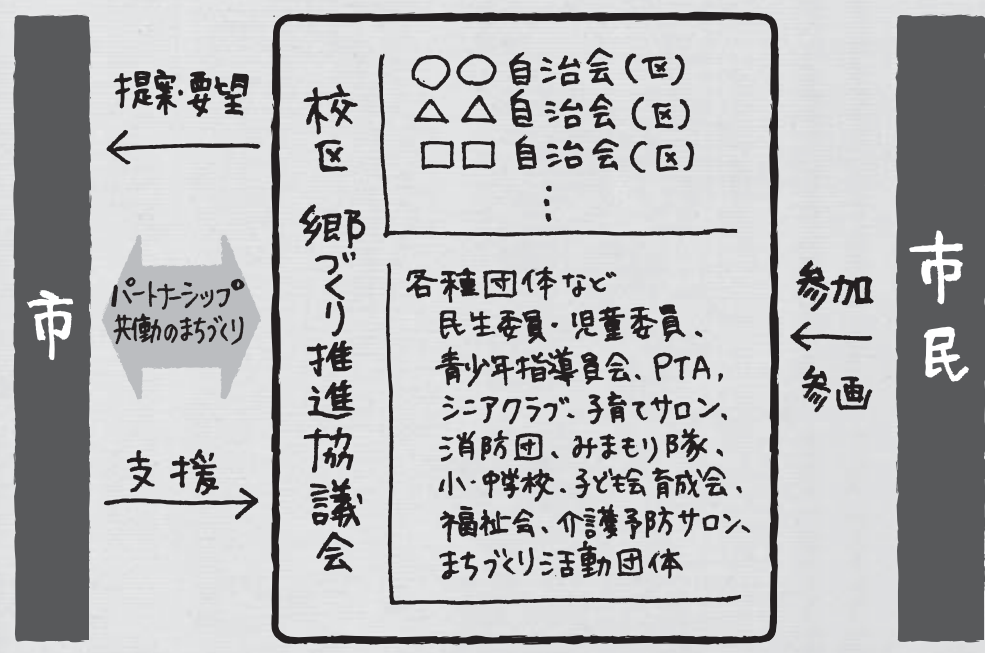
いきいきとしたまちづくりは、地域のパワーの結集から

「郷づくり推進協議会」は地域の知恵と力を結びつけます

校区の中では、下図のような多様な団体(個人)が、市の担当課や関係機関と情報を共有しながら、テーマ・分野ごとに活動をしています。市と各自治会(区)、市と各種団体とは協力しながら、それぞれの活動を継続してきましたが、校区内の団体同士はお互いの活動や課題について話し合う場が少なく、連携や調整が図りにくいという現状があります。

近年、地域の課題が多様化していることから、「単独の自治会(区)だけでは対応できない」「それぞれの団体だけでは難しい」「行政の力だけでは手が届かない」といった状況が生まれています。子どもから大人まで、誰もが安心して気持ちよく暮らしをいけるよう、地域の知恵と力を結び付け、行政との共働を進めるのが「郷づくり推進協議会」です。

地域自治をめぐる郷づくり推進協議会のイメージ

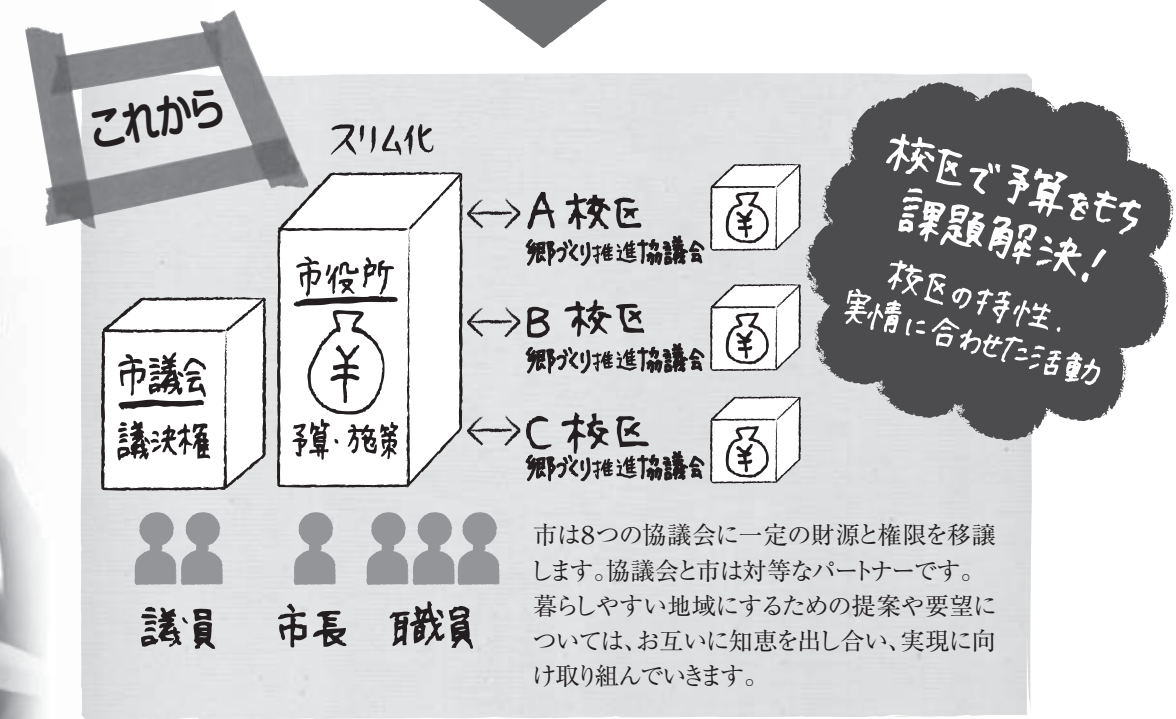
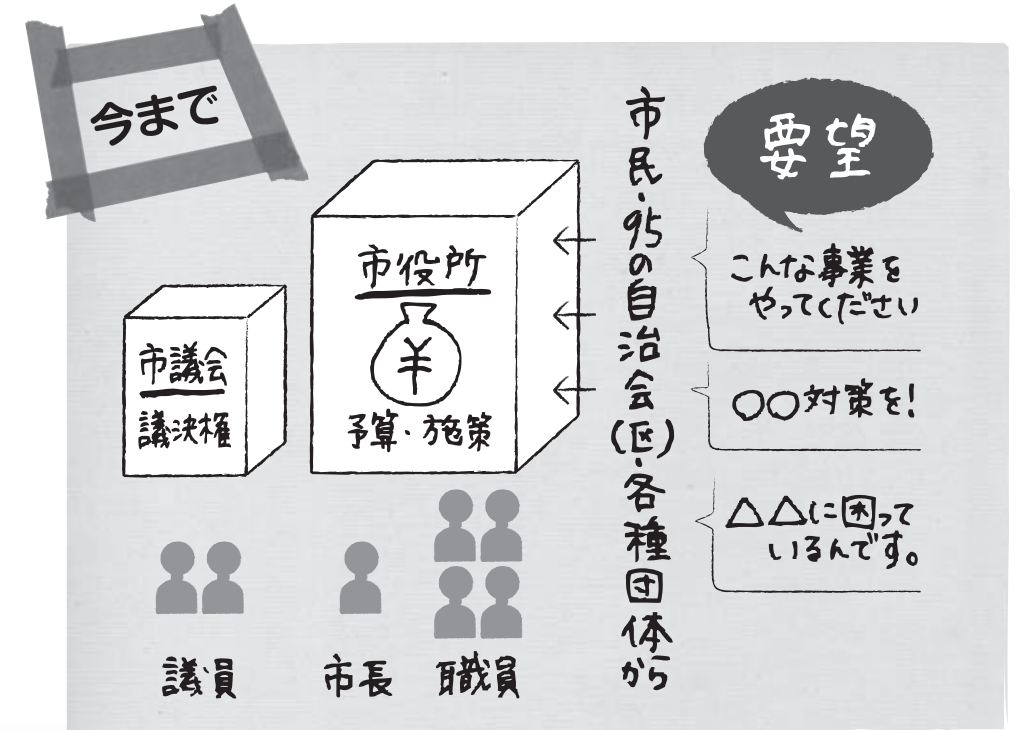


※郷づくり推進協議会は各校区の実情に合わせて構成します。
※幅広い年齢層の市民、多様な活動団体の参加・参画が求められます。

郷づくり推進協議会への期待～地域での役割～

校区内の自治会(区)や活動団体をつなぎ、やる気ある市民の活動の場を創出することで

- ① 市民の暮らしを良くする活動に取り組む
防災、防犯、子育て支援、環境景観、福祉、健康づくり、生涯学習講座など
- ② 校区で取り組みやすい事業を開催する
校区スポーツ大会、文化祭、祭り、子ども会育成会行事など
- ③ 校区の地域資源を引き出し、地域への愛着を育む



市は8つの協議会に一定の財源と権限を移譲します。協議会と市は対等なパートナーです。暮らしやすい地域にするための提案や要望については、お互いに知恵を出し合い、実現に向け取り組んでいきます。



Q 自治会(区)って何？

A 自治会(区)は、一定の地域を単位として住民自らの手で設立された自治組織です。「今よりもっと住み良いまちにしたい」「子どもたちが安全に遊び遊べる環境をつくりたい」など皆さんで力を合わせて活動していく大切な組織です。

Q 郷づくり推進協議会って何？

A 例えば少子化により、ドッジボール大会への単独参加ができない場合、隣の自治会(区)と一緒に柔軟にチーム編成ができるのに…。そんなことを感じたことはありませんか？一つの自治会(区)だけでは解決が難しいとき、校区で連携し、みんなで取り組み、活動の幅も参加者もぐっと広がります。その受け皿となるのが、校区ごと8地域で活動している「郷づくり推進協議会」です。

地域の身近な課題などを自分たちで考え、行動し、豊かな地域生活が実感できる「地域分権」のまちづくりを目指しています。

Q 自治会(区)のやっていることが郷づくりに移るのですか？

A 自治会(区)の役割や業務が、郷づくり推進協議会に移るわけはありません。

参考までに、自治会(区)は次のようなことをしています。

●主体的に行っている行事や業務
・防犯灯の維持管理・地域の清掃・親睦行事・敬老行事・スポーツ、レクリエーション行事・区民相互の連絡・盆踊りやまつり・慶弔・小地域福祉会や介護予防サロンなど

●自治会(区)業務のうち、市などと連携して実施していること
・全市一斉美化運動
・地域分別ステーションの運営
・行政への要望書提出
・募金の協力や取りまとめなど

●市が自治会(区)に依頼している業務
・市広報誌、議会だよりの配付
・市政の周知(回覧文書、ポスター掲示)
・防災行政無線の設置(自治会(区)長宅)

Q 郷づくり推進協議会は、どんな活動をしていますか？

A 市内8つの協議会が、主体的にさまざまな活動をしています。運営には会員の皆さんをはじめ、たくさんの方の地域ボランティアが活躍しています。

●環境・景観
・海岸防風保安林の保全活動・違反広告物の撤去・通学路の花壇づくりなど

●防犯・防災
・地震対策勉強会・自主防災組織づくりなど

●福祉
・助け合い福祉マップの作成・てんとつむし体操(転倒防止・シニア向け健康教室・緊急時の安心情報セット・高齢者安否確認電話など)

●子育て
・子どもたちの星空観察会・子育てサロン、アンビビヤス広場など

●祭り・その他
・竹灯まつり・校区文化祭・農業体験など

Q 市が地域に交付しているお金はいくらですか？

(平成23年度の予算額)

A 自治会(区)交付金
95自治会(区)活動を支援するお金(市依頼業務を含む)
1億2500万円

郷づくり推進事業交付金

8つの郷づくり推進協議会の活動を

支援するためのお金
1600万円

Q 郷づくりに参加するにはどうしたらいいですか？

A 各協議会が発行する広報紙や回覧物にある連絡先に直接電話するか、各協議会事務所の郷づくりマネージャー(市職員)に気軽に問い合わせください(勤務は毎週水・金曜日の午前8時30分〜午後5時です)。

勝浦 ☎52・2217
勝浦公民館内

宮司 ☎52・0780
宮司コミュニティセンター内

津屋崎 ☎52・1553
地域交流センター

福岡南 ☎72・5138
市営住宅岡谷団地集会所内

神興 ☎43・0621
東部児童館内

神興東 ☎43・1421
神興東小学校内

上西郷 ☎72・5093
上西郷小学校内

※福岡地域は調整中です。
お住まいの郷づくり地域が分からない人、マネージャー不在のときなどは、市郷づくり支援課へお尋ねください。
問い合わせ 市郷づくり支援課(津屋崎庁舎) ☎52・4913

「地域自治」は、有機野菜づくりに似ている

喜びと感動を得るには、自分の手を使うしかないのです

私はまちづくりや自治を『有機政治』であると考えます。これは20世紀の民主主義もどきの、お金という化学肥料をばら撒く無機政治ではなし得なかった豊かな社会を作るための改革です。市民と市役所と議会が互いにその身を投げ出して有機的に働くことで、本当の民主主義を育て守っていく、そのプロセスに共働があり、その結果が自治ではないでしょうか。

でも、現実には政治や行政は、税金を払うことで簡単に済まされる、化学肥料世界です。高い税金を払っています。だからといって満足できる結果は得ていませんが、防犯・災害・教育・福祉どれもそれなりのレベルで維持できています。よく考えるとすごいことかもしれませ

ん。それを維持し、もっと市民の思いを強くし、より良い結果を出すことが求められています。それをお金のマジックを使わないでやるとうのです。

それはたとえば、これまでスーパーで気軽に買い物籠に入れていた野菜を、福津市では明日から市民全員が畑を耕し、肥やしを入れ、土作りをして育てていくという決心をするくらいの大仕事だと思えます。なぜスーパーの野菜ではなく、自分たちで野菜をつくらなくてはならないのかという理由の説明とそうしなければならぬという動機付けが必要です。それが何かというと、自治をすること、人と人がつながり、思いを同じくし、ともに行動して、自分たちの思うような安心で安全で明るく豊かな地域社会を営んでいくことの喜びです。それは誰かほかの人が

作ってくれるものではなく、自分に関わる以外に満足できるものをつくることはできない体験と感動です。働いた人だけが得られる充足感です。見てくれは悪くても体に悪いものが入っていないという100%の安心と汗を流して手間隙をかけて作った野菜が「おいしい」という喜びと感動を得るには、自分の手を使うしかないのです。

市民・議員・行政の意識改革が大切です

自治は行動です。誰も動かなければ地域自治というカタチだけが生まれてしまいます。自治を形骸化してしまうと、悲惨なことになりかねません。野菜がスーパーで買えなくなったからと、そこらへんに種をばらまいてもダメなのです。市民も市役所も議会も困った

ことになるに違いありません。地域自治に移行するというのは橋のない川を渡るようなものです。強い意欲と関心と情熱が共有されていなければできないことです。でも、畑を作り種をまけば、やがて小さな芽が出ることが約束されています。小さな芽は、市民の思いの実現なのです。やがてそれが希望になり、自分たちの望む安心で安全で仲良く楽しく暮らすまちを自分たちが創っているのだという誇りとなって花開くときがくることを信じて疑いません。遠回りのようですが、思いを共有していくことから始めるのが、共有・共感・共働・共創の第一歩です。豊かな暮らしは自分たちという「私」の集合が創るしかないという市民・議員・行政の意識改革が、大切ではないかと思えます。



辻 桂子さん

市民が創る市民・市長・職員・議員の対話の場「トライアングル」を主催している「福津市共働推進会議」で2009年からアドバイザーを務める。糸島市在住の市民活動家。市民と行政をつなぐ通訳者。福岡市共働事業提案制度の審査員。著書に「真夜中の図書館」。